

令和4年4月14日

農林水産部次長兼漁政課長 青木 雅志
(担当補佐 武士 和良 内線 4065)

茨城県ホッキガイ（ウバガイ）の採捕及び出荷の自主規制について

茨城県産ホッキガイから、国の規制値を上回る麻痺性貝毒が検出されたため、関係する漁業協同組合、水産加工業協同組合等に茨城県産ホッキガイにおける採捕及び出荷の自主規制を要請しました。

ホッキガイは水深5～12mの砂泥域を生息地としており、潮干狩りで採取されることは通常ありませんが、浜辺に生きたまま打ち上げられることがあることから、発見した際には食用としないようご注意ください。

鹿島灘海域で、令和4年4月11日に採取したホッキガイを検査機関（一般財団法人日本食品検査）で検査した結果、国の規制値（1gあたり4.0マウスユニット）を上回る8.2マウスユニットの麻痺性貝毒が検出されたため、令和4年4月14日付けをもって、沿岸の漁業協同組合等に、ホッキガイの採捕及び出荷の自主規制を要請しました。

麻痺性貝毒は、春から夏にかけて発生しやすく、その原因は、毒化するプランクトンを貝が大量に摂取することによります。本県産ホッキガイの自主規制は平成8年以来となります。

今後は、週1回の頻度で検査を行い、3週連続で規制値を下回った場合に、出荷自主規制等を解除いたします。

なお、4月11日に採捕されたホッキガイ（9kg）につきましては、全量が流通しておりますが、全ての流通先が判明し、健康被害がないことを確認済みです。

※ホッキガイと同じ漁法で採取されるハマグリについては、規制値以下であるものの、検査頻度を増やし、監視を強化してまいります。



【参考写真】ホッキガイ

1. 貝毒について

(1) 貝毒の種類

	麻痺性貝毒	下痢性貝毒
毒化原因	貝類が有毒プランクトンを摂取することで毒化が起こる	
原因 プランクトン	アレキサンドリウム・カテネラ	ディノフィス・フォルティ
毒成分	サキシトキシン (STX) ゴニオトキシン (GTX)	ディノフィシストキシン (DTX)
毒化貝	ハマグリ、ウバガイ、ムラサキイ ガイ、アサリ、カキ等	ハマグリ、ウバガイ、コタマガイ、 ムラサキイガイ、アサリ等
中毒症状	口唇、舌、顔面のしびれ等	下痢、吐気、腹痛

(2) 規制値等

	麻痺性貝毒	下痢性貝毒
規制値 ¹⁾	4 MU/g (可食部)	0.16 OA 当量/kg (可食部)
要警戒値 ²⁾	2 MU/g (可食部)	0.05 OA 当量/kg (可食部)

1) 平成 27 年 3 月 6 日食安発 0306 第 1 号厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知による。

2) 平成 27 年 3 月 6 日付 26 消安第 6073 号農林水産省消費安全局長通知による。

2. 最近の毒値 (麻痺性)

茨城県産ホッキガイ

採取月日 : 平成 8 年 4 月 16 日

検査年月日 : 平成 8 年 4 月 18 日

試験結果 : 7.9 マウスユニット/g

3. 茨城県における過去の貝毒発生状況

平成 8 年以降、茨城県産ハマグリ、ホッキガイにおける貝毒の発生はありません。

4. 茨城県産ホッキガイの採捕及び出荷自主規制の要請・通知先

・ 県内沿海各漁業協同組合	10 件
・ 県内沿海各水産加工業協同組合	7 件
・ 茨城沿海地区漁業協同組合連合会	1 件
・ 茨城県水産加工業協同組合連合会	1 件
・ 県内各消費地市場	6 件
・ 県内各市町村	44 件
・ 県内関係機関	6 件
・ 農林水産省消費・安全局	1 件
・ 各都道府県	46 件
	122 件